

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和元年度
福島県意見交換会(第1回)

事務局提出資料

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2019年6月18日

● 目次

1. 今年度の意見交換会の方向性
2. 過去の意見交換会
3. 今年度の意見交換会の進め方
4. 議論のテーマ案
5. テーマに関する詳細検討事項

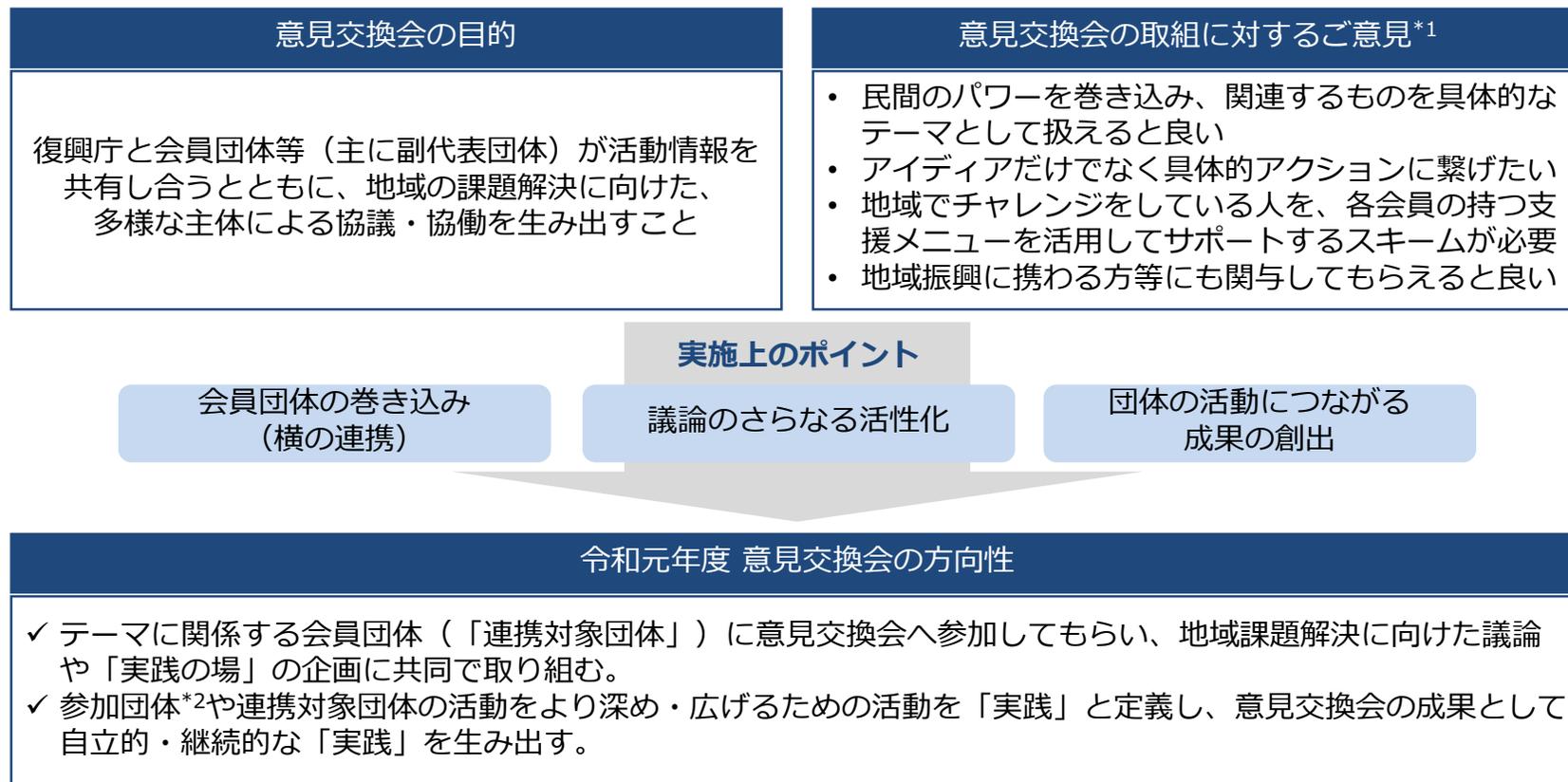
【参考】 岩手県のテーマ案

【参考】 宮城県のテーマ案

● 1. 今年度の意見交換会の方向性

本協議会では意見交換会を、復興庁と会員団体等（主に副代表団体）が活動情報を互いに共有し、地域の課題解決に向けて協議・協働を生み出す場と位置付けています。

今年度は特に、副代表団体以外の会員団体の巻き込み・議論の活性化・団体の活動につながる成果創出に注力します。



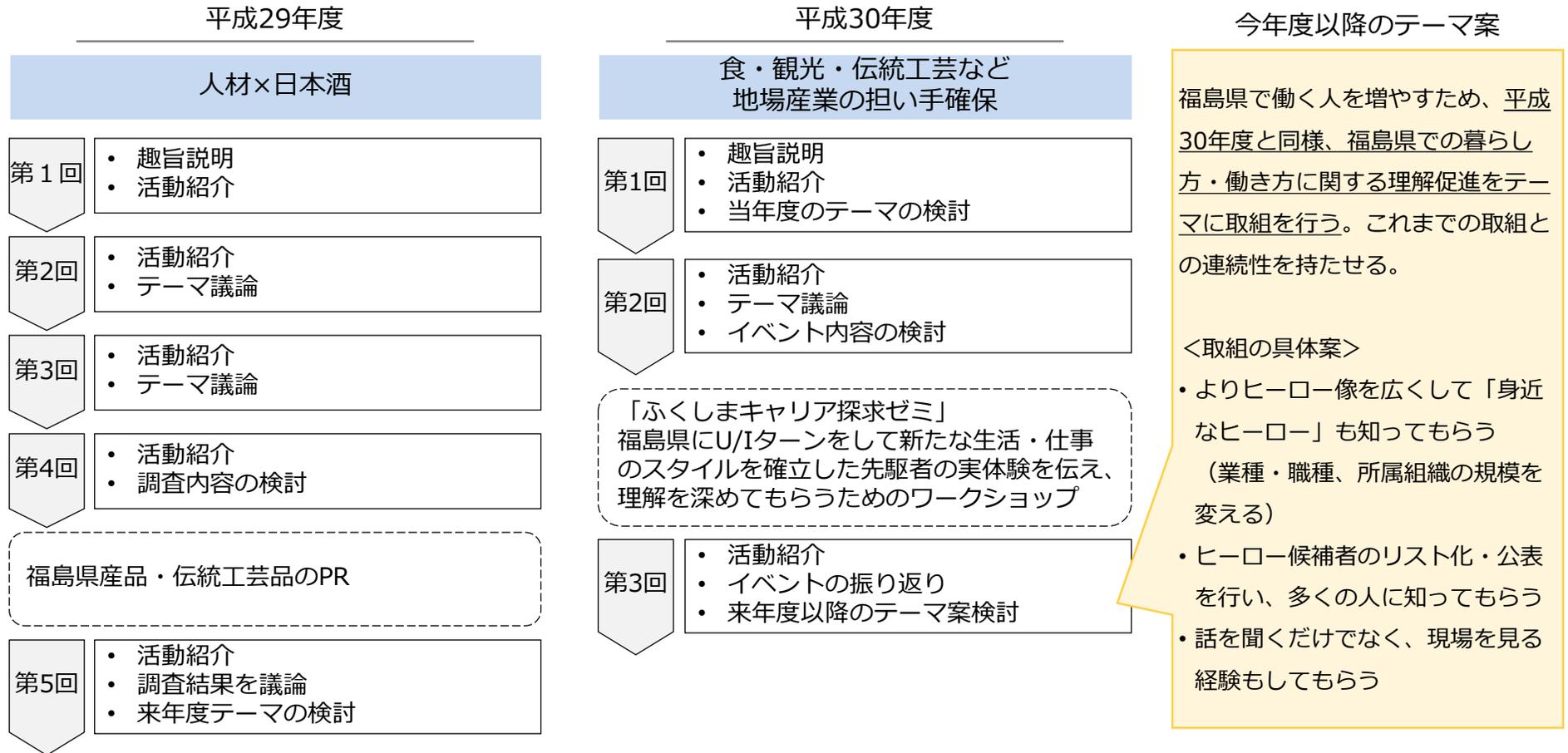
*1: 3県の第3回意見交換会内の発言を一部引用

*2: 副代表団体およびオブザーバーとして参加いただく団体

● 2. 過去の意見交換会

過去2年間の意見交換会では、地場産業等の人材不足対応策（特に、暮らし方・働き方の理解促進）をテーマに議論を展開。

今年度以降もテーマは継続し、取組を拡大・深掘りすることが必要、との意見が挙がっておりました。



● 3. 今年度の意見交換会の進め方

昨年度同様、全3回の意見交換会と「実践の場」を開催予定です。

テーマに関わりの深い「連携対象団体」に第2回の議論から参画いただくことで、地域でチャレンジしている人を巻き込んだ「実践の場」の企画や、「実践」の継続を目指します。

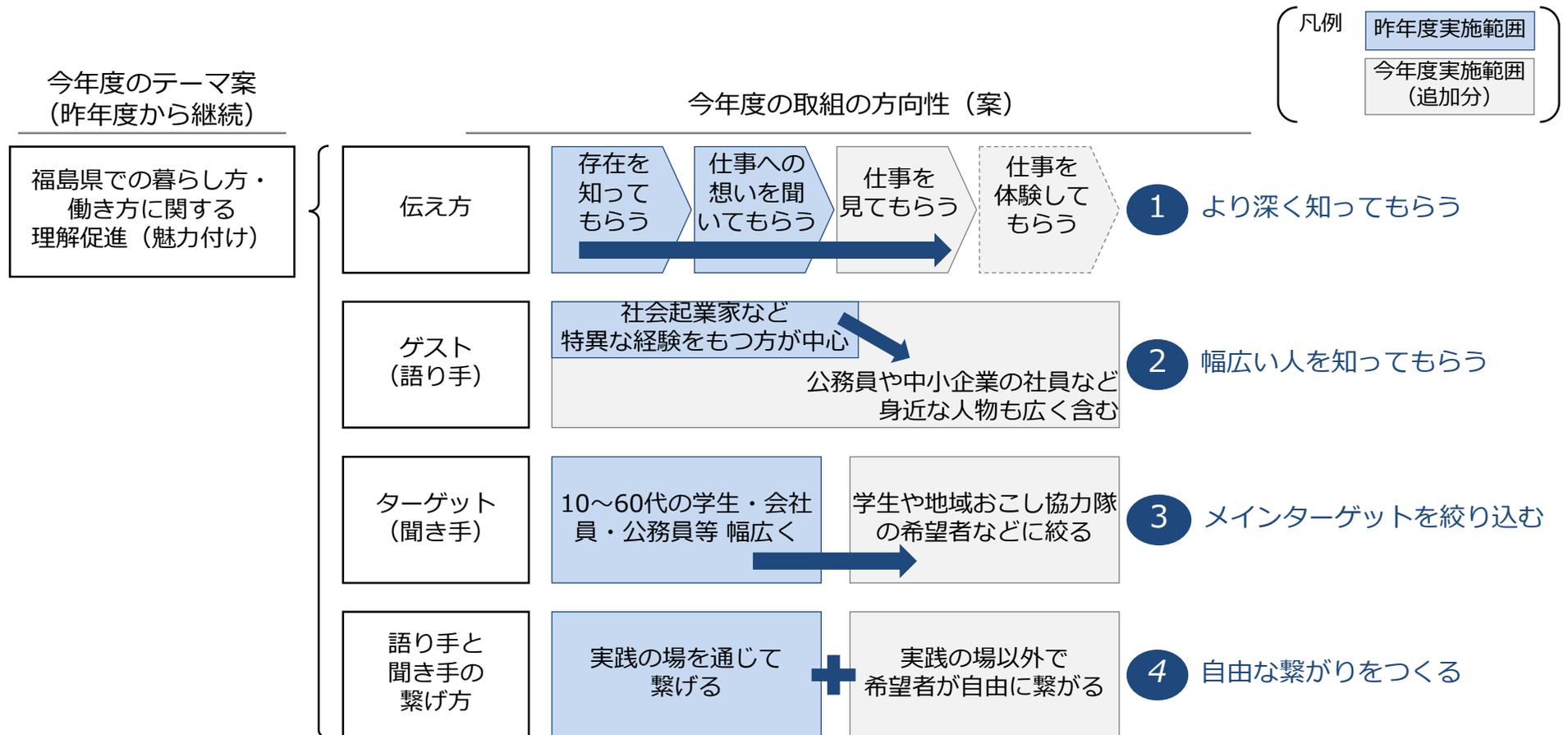
実施事項（案）

取り組みのポイント

| | | |
|---|--|---|
| 第1回 | <ol style="list-style-type: none">1. 意見交換会の趣旨、過去経緯（他県含む）の説明2. 今年度の方針説明3. 参加団体の今年度活動内容の紹介4. 今年度テーマの検討（連携対象団体の検討含む） | <ul style="list-style-type: none">✓ テーマを決定するとともに、第2回以降から参画してもらう連携対象団体についても議論する |
| 第2回 | <ol style="list-style-type: none">1. 参加団体の活動紹介2. 連携対象団体によるプレゼンテーション等3. テーマ議論4. 「実践の場」の内容検討 （連携対象団体を企画時から巻き込む） | <ul style="list-style-type: none">✓ 連携対象団体より、現在の活動内容やテーマに対する問題意識・展望などについて共有してもらう✓ 上記を踏まえて、地域でチャレンジをしている人を巻き込んだ「実践の場」や連携の在り方を議論する |
| 「実践の場」の詳細設計～開催～結果整理 | | |
| 第3回 | <ol style="list-style-type: none">1. 参加団体の活動紹介2. 「実践の場」の振り返り、今後の展望の議論3. 来年度以降のテーマ案の検討 | <ul style="list-style-type: none">✓ 会員団体の生業（活動）を深化・拡大させることや、継続的なアクションに繋げることを目的とする✓ 「実践の場」の振り返りに加え、今後の活動や体制を、自立的に継続させるための議論を行う |
| 「実践」の継続 | | |
| <ul style="list-style-type: none">✓ 今年度の意見交換会終了後も、「実践」を継続する | | |

● 4. 議論のテーマ案

今年度も従前のテーマを引き継ぎ、「福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進」をテーマとする想定です。
また、具体的な取組に関しては昨年度のご意見を踏まえて、事務局素案として以下4案をご提案します。



● 5. テーマに関する詳細検討事項

テーマに対して具体的に議論できるよう、背景・狙いや連携対象団体の候補についてご意見を頂きたいと存じます。

1 より深く知ってもらう

2 幅広い人を知ってもらう
OR

3 メインターゲットを絞り込む

4 自由な繋がりをつくる

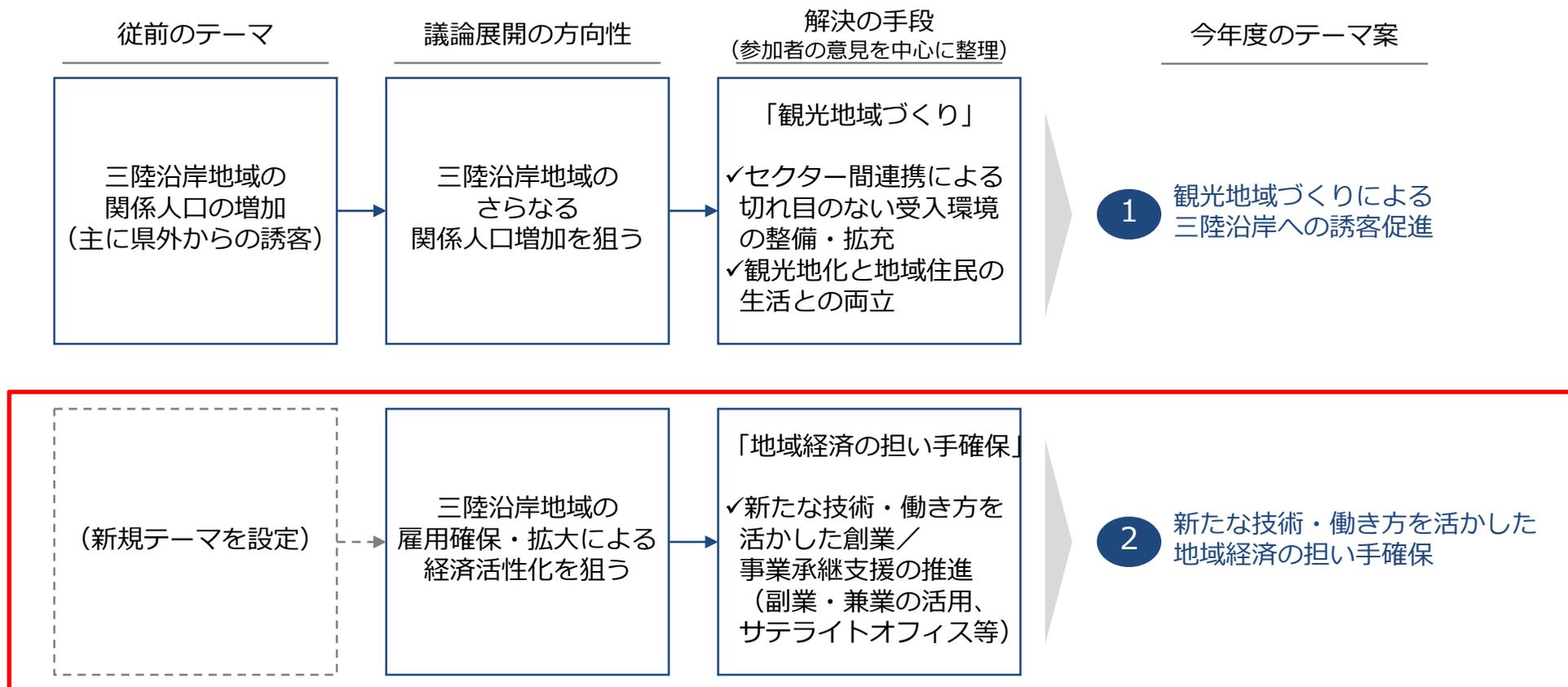
テーマ
設定背景

従前の検討・取組を継続

| | | | |
|------------------|---|---|---|
| 狙い | 仕事の具体的な内容を伝えることで、働き方や魅力をより具体的に理解してもらう。 | 多様な働き方を伝える 又は 聞き手のある程度絞ることで、聞き手一人ひとりに合ったロールモデルを見つけてもらう。 | 福島県に興味をもった人が、自ら様々な人物・ストーリーを検索し、知ることのできる仕組みづくりを目指す。 |
| 連携対象団体 (イメージ) | ・昨年度のゲスト | ・県内の企業・NPO・自治体に所属する「身近なヒーロー」 | ・県内の企業・NPO・自治体等 ・県内の学校 |
| 実践の場 (イメージ) | 写真等を用いた仕事内容・職場の雰囲気紹介や、仕事の簡単な疑似体験（ロールプレイ等）を行うワークショップを開催。 | ゲストを変更し、「ふくしまキャリア探求ゼミvol.2」を開催。 | ・「福島県で働く人の魅力を県外に紹介する」をテーマとしたアイデアソンを実施。 |
| 成果 (イメージ) | ・県内住民/移住希望者に対して、より強く魅力付けができ、就転職を希望する人が現れる。 | ・幅広い（又は明確なターゲットに対して）県内住民/移住希望者に対して魅力付けができると共に、今後の協議会活動に巻き込みやすくなる。 | ・実践の場で検討したアイデアをもとに、参加団体が各自の活動の一環で情報を発信し、福島に関心をもつ人がより手軽に連絡を取れるようになる。 |
| 論点 | ・コンテンツを充実させるため方法（例：他イベントとの共同開催） | ・「身近なヒーロー」の探し方 ・昨年度の振り返りを踏まえた、イベントの改善点 | ・情報の受け取り手のターゲット ・類似の取組（移住事例集や移住サポートメディア等）との棲み分け、又は連携方法 |

● 【参考】 岩手県のテーマ案

岩手県では、三陸沿岸地域の経済活性化を狙い、「新たな技術・働き方を活かした地域経済の担い手確保」のテーマに沿って検討する予定です。



テーマ案②に沿って検討

● 【参考】 宮城県のテーマ案

宮城県では、昨年度実施した「南三陸をつなげる30人」の取組を発展させるか、もしくは別テーマを設定する予定です。

